

平成 22 年 5 月 24 日現在

研究種目： 基盤研究(C)

研究期間： 2007～2009

課題番号： 19520356

研究課題名 (和文) 北京新出資料から見る清代口語の諸相

研究課題名 (英文) Various Aspects of Colloquial Mandarin in the Qing Period
with a View to the New Materials Found in Beijing

研究代表者

落合 守和 (OCHIAI MORIKAZU)

首都大学東京大学院人文科学研究科文化関係論専攻 (中国文学)・教授

研究者番号： 40117700

研究成果の概要 (和文)：

3年間計14回の北京調査により、次の四つの調査課題、二つの研究課題のそれぞれについて調査と研究を進め、北京語・共通語とその口頭表現に関する新しい知見を得た。

- ①北京白話報刊 (新聞と定期刊行物) の調査、
- ②影戲影詞 (影絵芝居とその脚本) の調査、
- ③口供供詞 (裁判の供述筆記とその引用) の調査、
- ④電視劇本 (テレビドラマの脚本) の調査、
- ⑤上記①～④により収集された清代から民国期にかけての言語資料を集積する「清民語庫」の構築、
- ⑥⑤に基づく年代の確かな資料による清代民国時期の漢語の演変研究

研究成果の概要 (英文)：

There are so many kinds of the colloquial materials in Modern Chinese which do not have been investigated in China. This present study investigated some aspects which are appeared in the four kinds of the Colloquial Materials from the Qing(清) Period downward as follows:

1) the newspapers and the periodicals written in the Colloquial Mandarin and published in Beijing in the end of Qing Period, 2) the playing books of the Shadow Play circulated in Beijing(北京) and Hebei(河北) Province in the end of Qing Period, 3) the affiant statement recorded in the Court of justice in the Qing(清) Period, 4) the oral expressions in the serial video drama telecasted in Beijing

Results indicates that some of the grammatical features in the former three kinds of materials are similar to that of the latter one and the novels and another materials in Qing Period.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：(1) 近代漢語 (2) 旗人話 (3) 白話報刊 (4) 影戯影詞
(5) 刑部档案 (6) 順天府档案 (7) 供詞 (8) 電視劇本

1. 研究開始当初の背景

・研究代表者(落合)は、1999年から2000年にかけて1年間の北京調査の後、さらに2001年以降毎年数回の北京調査を継続し、そこで入手した言語資料(これに「清民語料」の名を与えた)の紹介とその初歩調査による学会報告を重ねてきた。そのなかには、内外学界で紹介されたことのない新発見の資料も若干ある。

・たとえば、2005年12月、北京のとある旧貨市場の一角から、小説一編が出現した。民国3年(1914)刊『社会小説埋香記』全六十二回の短編小説で、これまで知られていなかった小説である。この時代に盛んに出版されていた北京白話報の一つ『群強報』の付録(「附張」)で、全六十三葉(完)。清代末期の北京語(旗人話)を代表するとされる光緒34年(1908)刊『社会小説小額』と同様の旗人話の語法特徴を持つ講談調白話体の旗人小説である。『社会小説小額』につながる作品と思われる(落合守和、『社会小説埋香記』の言語について、日本中国語学会第57回大会予稿集、2006年、pp.266-270、参照)。

・中国では、影絵芝居の脚本が20世紀末まで抄本(手書き写本)により伝えられていることに示されるように手書きテキストの伝達力が強かったこと、一方では、十九世紀末以降急速に活版印刷が普及し、白話・文話(文言)の新聞「白話報」「文言報」が盛んに出版されたこと、などから当時の文字や図像による情報伝達の実態を正確に把握するためには、多様な文字資料(抄本と刊本)の全体を俯瞰する必要がある。

・改革開放から和諧社会へ、この三十年来の社会変容と都市改造の結果、国营や公営の企業(出版社・学校・図書館を含む)からも個人の住宅からも、大小を問わずさまざまな書物が放出処分されている。かつて1920年代に北京の某所から出現した俗曲手書きテキストの大きなひと山(後に「(蒙古)車王府曲本」と呼ばれる)のように、未知の価値あるコレクションが現れる可能性もないとは言えない。

2. 研究の目的

・十九世紀の末、北京の零落した満洲旗人の家庭に生まれた舒慶春(1898-1966、後の作家老舍)は、自伝風の中篇小説『私の一生』

(1937)に記すところによれば、幼年時代恵まれた読書環境ではなかったが、北京の日刊白話報(彼は「小報」と呼ぶ)に親しみ、そこに連載された評書聊斎の幾編かは暗誦するほど読み込んでいたという。

・この研究では、こういったこれまであまり知られてはいない北京庶民の言語生活に目を向けたい。北京及びひろく北方地域の言語生活を反映する、十七~二十世紀、清代から民国期にかけて(1644-1949)の口語系文献の収集に努め、北京=北平を中心とする武士(「旗人」と農工商の一般庶民(「民人」)の口語の諸相を明らかにしたい。

3. 研究の方法

・六つの研究班が、次の四つの調査課題、二つの研究課題を分担し、3年間の調査研究を進める。

(1) 北京白話報刊の調査

清末から民国初めにかけて盛んに刊行された北京の白話報刊(新聞と定期刊行物)を収集し、その口語系の記事を抽出抄写する。

(2) 影戯影詞の調査

河北東部で特に流行したと言われる影絵芝居「影戯(皮影戯)」の抄写脚本(「影詞」「影卷」などと呼ばれる)や各種俗曲の抄本または石印本の原件・複製を収集し、抄写する。

(3) 口供供詞の調査

中国の裁判では、自白を重んじる伝統があったと言われるが、本人の供述がどのように記録されたか実例に基づく研究は少なく、裁判の実際も不明の部分が少なくない。その語法特徴及び通時変化は、ほぼ未着手の分野と言ってよい。

北京の中国第一歴史档案馆に所蔵される檔案より、事案関係者の口供供詞(裁判の供述筆記とその引用)を抽出抄写する。

(4) 電視劇本の調査

上記(1)~(3)の清代口語と比較する口語作品の候補として、北京で放送される電視劇(連続テレビドラマ)に取材し、特徴ある作品を収集する。

(5) 清民語庫の構築

上記(1)~(4)により発掘収集された清代から民国期にかけての言語資料を

「清民語庫」に集積する。

(6) 清民語料の解析その他

上記(5)より口頭対話を抽出する。太田辰夫 1958『中国後歴史文法』の枠組みを用い、漢語語彙語法の演変を記述する。年代の確かな資料により、近代漢語研究の前進を図る。

4. 研究成果

・言語資料の収集と蓄積を積み重ね、そのいくつかについて初歩的な口頭報告を積み重ねることができた。

・その結果、清代口語と民国時期の口語との間には、不連続性よりはむしろ連続性に注目すべきであるとの印象を持つにいたり、十七世紀から二十世紀を見通した「清民口語史」を記述することができないか、と構想するに至った。できるとすれば、この研究は、この課題の里程標の一つとなるであろう。

・北京調査の時期

2007年4月から2010年3月まで、合わせて14回、計196日間、北京調査に従事した。それぞれの調査の時期(始期・終期)は次のとおり。

このうち、2009年10月1日～2010年3月31日の間は、本務校の「特別研究期間」を取得した。

【2007年度】 (計4回、52日間)

2007年5月11日～5月14日(4日間)
2007年9月10日～9月24日(15日間)
2007年12月17日～12月28日(12日間)
2008年3月7日～3月17日(11日間)

【2008年度】 (計3回、26日間)

2008年4月24日～4月27日(4日間)
2008年9月5日～9月15日(11日間)
2008年12月19日～12月29日(11日間)

【2009年度】 (計7回、128日間)

2009年4月29日～5月10日(12日間)
2009年9月28日～10月9日(12日間)
2009年10月26日～11月6日(12日間)
2009年11月13日～12月25日(43日間)
2010年1月8日～1月29日(12日間)
2010年2月19日～3月8日(18日間)
2010年3月15日～4月2日(19日間)

・北京調査の場所

上記、2007年4月から2010年3月までの全期間を通じて、調査した場所は次のとおりである。所在地はいずれも北京市内。

中国第一歴史档案館(故宮西華門内)
北京市档案館(北京市蒲黄榆、南三環内)
首都図書館(東三環内)
中文期刊閱覽室(三層)

中文期刊閱覽室(五層)

中国国家図書館(西三環外)

北京大学図書館(北四環外)

中国書店報刊資料部(西单横二条)

中国書店読者服務部(瑠璃廠東街)

中国書店瑠璃廠書店(瑠璃廠東街)

中国書店海王邨拍賣有限責任公司(瑠璃廠東街)

中国書店來薰閣書店(瑠璃廠西街)

中国書店古籍書店(瑠璃廠西街)

中国書店灯市口書店(灯市東口)

中国書店隆福寺書店(東四隆福寺街)

中国書店來薰閣書店(瑠璃廠西街)

潘家園旧貨市場(東三環内)

古旧書刊区(1)(南院)

古旧書刊区(2)(西院)

西地攤(西院)

丙区二層

大庁二層

報国寺文化市場(廣安門内/牛街路口西)

清竹風音像店(千厥坊音像店)(隆福寺街)

(1) 北京白話報刊(新聞と定期刊行物)の調査

・『啓蒙画報』(1902-04)・『京話日報』(1904-?24)など清末民初の北京白話報には地元ニュース(本京新聞)、(演説)、(評書)など口語性の強い記事があり、その若干を拾い、抄写収集した。

・北京市档案館(北京市蒲黄榆、南三環内)に所蔵される白話報1910『法政官話報』、北京市政公所(市役所)の広報誌『市政通告』など、清末民初の庶民向け定期刊行物若干を閲読抄写した。

・北京のその他の各図書館、書肆及び旧貨市場の攤子において、さまざまな口語系文献を収集した。

(2) 影戲影詞(影絵芝居とその脚本)の調査

・影絵芝居「影戲(皮影戲)」の脚本「影詞」のうち、早稲田大学中央図書館所蔵(風陵文庫「某種戲詞」、澤田瑞徳旧蔵)の抄本『焦葉扇』全九本を抄写し、その校正作業を継続中である。同抄本は、1940年代に北京で収集されたものであるが、清末河北の口語を反映している可能性がある。

・1999年及び2000年代初めに見かけた影戲の上演抄本は、2010年3月現在なお旧貨市場の攤子に現れることがある。

(3) 口供供詞(裁判の供述筆記とその引用)の調査

・故宮西華門内に位置する中国第一歴史

档案馆に所蔵される刑部档案（原件）及び順天府档案（写真複製）を閲覧調査した。2008年5月以降所蔵档案の原件閲覧が禁止されたため、調査対象を順天府档案に変更した。

・北京周辺地区（「順天府」）で発した法律訴訟（「法律詞訟」）の事案のうち、土地・房屋・賭博・偷窃・婚姻・拐騙（人身売買）などの関連文書若干の案巻を閲覧したところ、それら文書のうちに、被疑者とその関係者の供述「口供」を記した供述書「供詞」の原件（時に「十」の文字に似た署名が添えられる）またはその引用（「據○○供」、女性の場合は「據□○氏供」の形式）を含む文書が多数検出された。多彩な俗字を同定し、抄写検討の結果、発話の引用を示す、《説（～と言った）》、動詞の接尾辞《了》《的》《過》、代名詞《我》《他》《他們》、前置詞《合（～と）》、句末助詞《呢》、準句末助詞《就是了》や感嘆詞《哎哟（아이）》の使用など、清代前期、十八世紀の小説『石頭記（紅樓夢）』、清代後期、十九世紀の小説『兒女英雄傳』と共通する口語性の強い語法特徴が見られることが判明した。

(4) 電視劇本（テレビドラマの脚本）の調査

・清代口語と比較する現代口語作品の候補として、2007～2010年に北京電視台や中央電視台などで放送された連続テレビドラマ若干と、北京の首都劇場（灯市西口）及び北京人藝実験劇場（同劇場内）で上演された現代劇（「話劇」）若干とに取材し、北京語とその口頭表現に関する新しい知見を得た。主な作品は次のとおり。

【連続テレビドラマ（北京電視台 BTV-4/1/2/9、中央電視台 CCTV-8/1 等）】
2010『オヨメサン万歳（媳婦的美好時代）』、
2010『兄貴の幸せ（老大的幸福）』、
2010『こちらの親父あちらの御袋（满堂爹娘）』、
2009『メイリイのここと（美麗的事）』、
2009『マイホームはいずこ（蝸居）』、
2009『ともにあるもの（相伴）』、
2009『オフクロたちの六十年（咱爸咱妈的六十年）』、
2009『東北に飛び込む中篇（闖關東中篇）』、
2009『幸せ通り9番地（幸福里九号）』、
2009『婚変』、
2009『北風那個吹』、
2009『私が社長（我是老板）』、
2009『人到中年』、
2008『チュンツァオ（春草）』、
2008『お手伝いさん（保姆）』、

2008『家は天より高し（家比天大）』、
2008『愛すればこそ（想愛都難）』、
2008『おんなの気持ち（女人心事）』、
2007『ともにある日々（金婚）』、
2007『にっこり笑って（笑着活下去）』、

【現代劇（「話劇」）（首都劇場／北京人藝実験劇場）】

2010『嘘をおっしゃい』（北京戲曲学院）、
2009『関係』（北京人民藝術院）、
2009『窩頭會館』（北京人民藝術院）、
2008『駱駝祥子』（北京人民藝術院）、

(5) 清民語庫の構築

・上記(1)～(4)により収集された清代から民国期にかけての言語資料を集積する「清民語庫」は、その準備作業の段階にとどまった。

(6) 清民語料の解析その他

・(5)に基づく年代の確かな資料による清代民国時期漢語の演変研究については、個別語彙語法の用例を蓄積するにとどまった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

①落合守和、清代北京刑事檔案所見の供詞口供、清代民国時期漢語國際學術研討會會前論文集、査読無、2010年、pp.117-129、韓國・牙山：鮮文大學校

②落合守和、清末民初北京白話報刊概観、清代民国時期漢語國際學術研討會會前論文集、査読無、2010年、pp.135-148、韓國・牙山：鮮文大學校

③落合守和、『實業淺説』の言語について、日本中国語学会第59回大会予稿集、査読無、札幌：北海道大学 2009年、pp.292-296、札幌：北海道大学

④落合守和、民国初年『市政通告』の言語について、日本中国語学会第58回大会予稿集、査読無、2008年、pp.322-326、京都：京都外国語大学

⑤落合守和、『官話萃珍』の言語について、日本中国語学会第57回大会予稿集、査読無、2008年、pp.338-342、那覇：琉球大学

⑥落合守和、北京語語法研究の資料について、中国近世語学会ニューズレター、査読無、2008年、pp.4-4、吹田：関西大学

〔学会発表〕（計6件）

①落合守和、清代北京刑事檔案所見の供詞口供、清代民国時期漢語國際學術研討會、2010年5月3日、韓國・牙山：鮮文大學校、

- ②落合守和、清末民初北京白話報刊概観、清代民國時期漢語國際學術研討會、2010年5月3日、韓國・牙山：鮮文大學校、
- ③落合守和、『實業淺説』の言語について、日本中国語学会第59回大会、2009年10月25日、札幌：北海道大学
- ④落合守和、民国初年『市政通告』の言語について、日本中国語学会第58回大会、査読無、2008年10月26日、京都：京都外国語大学
- ⑤落合守和、北京語語法研究の資料について、中国近世語学会第23回研究総会、査読無、2008年6月8日、名古屋：愛知大学車道キャンパス
- ⑥落合守和、『官話萃珍』の言語について、日本中国語学会第57回大会、査読無、2007年10月28日、那覇：琉球大学

[その他]

ホームページ等

<http://www.bcomp.metro-u.ac.jp/chubun/luohe//luoheindex.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

落合守和 (OCHIAI MORIKAZU)

首都大学東京大学院人文科学研究科

文化関係論専攻 (中国文学)・教授

研究者番号： 40117700